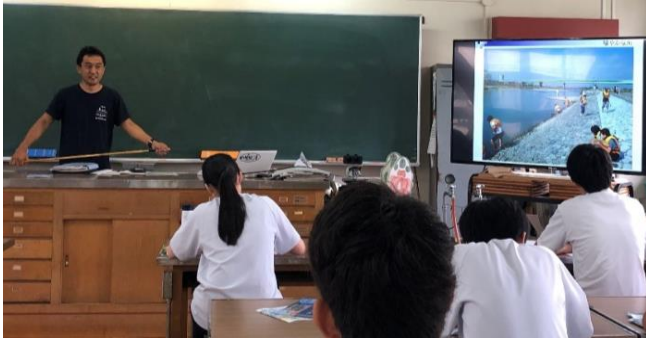


2年生総合的な学習“土岐川ゼミ”

～NPO 法人 RAC・公益財団法人河川財団による河川安全講習～



危険予知の重要性を教えてくださいました
(斎藤先生)



スクラムを組んで、激流の中救助に向かう訓練

河川安全講習会(座学・実技)を受講しました！

NPO 法人 RAC より 斎藤先生、公益財団法人河川財団より小野先生のおふたりを講師としてお招きし、河川安全講習会(午前：座学 午後：実技)を受講しました。土岐川ゼミでは実際に川に入り、生物調査・自然再生を実施しています。これらの活動は安全第一を絶対として実施しています。しかし、相手は自然です。いつ、どこで、どんなことが、誰の身に起きるかはわかりません。そこで、川での突発的なトラブルが起きた時に、自分の身は自分で守る方法、川で溺れている人がいた場合取るべき行動・方法を学びました。

午後の実技研修は、実際にライフジャケットとヘルメットを着用し、土岐川本流で実施しました。川に流された時に安全に岸に戻る訓練や溺れている人に対して救助用ロープを正確に投げる訓練を行いました。特に印象的だったのは溺れた際に決して立とうとしてはいけないということです。川はプールと異なり地面は石だらけです。むやみに立つと足が挟まり二次被害へとつながる恐れがあります。溺れた際は、バタ足はせず、腕の力だけで岸に近づき、最後に立つという正しい知識を得ることができました。講師の方の川は決して危険な場所ではなく、正しい知識と行動が伴えば、最高の遊び場という言葉も印象的でした。講義の内容でもありましたが、“リスクマネジメント”の前提である“未然防止”を大切に、楽しみながら活動を行っていきたいと思います。この講習会の受講も事前に川の危険を知り、取るべき行動・方法を知るという観点において、大切なリスクマネジメントであったと考えます。

生徒感想

- ・川の流れは見た目では分からないことが多く、下降流や水圧が思ったよりも強いところがあり、実際に流されてみて、驚いた。また流れがあるところで泳ぐことは普段慣れておらず、とても疲れた。川で活動する際には、どんな危険が潜んでいるのか先に考えてから、活動をするようにしたい。
- ・溺れている人を救助する際に、ロープを投げたが、これがなかなか難しく訓練が必要だと思った。失敗が許されない中での救助となるので、正確に投げられるようにしたい。

担当：杉本真弥 佐賀達矢